

THE ピックアップ ラコルタの取り組みを紹介！

感染拡大防止のため、開催を見合わせた事業も多くありましたが、コロナ禍によって新たに取り組んだ事業もありました。今号では、年表形式でラコルタにおけるコロナ禍の一年を振り返ります。

2020年

2月	2月下旬に感染拡大防止のため、対面を伴う主催事業中止が決定
3月	3月6日～5月31日まで臨時休館となる。
4月	新型コロナウイルス感染症に伴う団体向け支援情報をHPに掲載
5月	市民公益活動団体へのヒアリング調査を実施
6月	条件付きで6月2日から開館を再開 ニュースレターにて、特集「非常時における市民社会の役割」を掲載開始
7月	「ネット回線」及び「オンライン事業セット」の貸し出しを開始 「オンライン会議 体験会」を開催（写真：右） 市民公益活動団体へのアンケート調査を実施
8月	「オンラインでつながろう！GoToラコルタ」開催 マスクおすそわけプロジェクトを実施
9月	対面を伴う主催事業を再開
10月	講演会「ポストコロナ時代のつながり革命」を開催（写真：右） 「ピンチはチャンス?!コロナ禍における市民公益活動のすすめかた」を開催
11月	「みんなのSUITA DAY」プレ実行委員会を開催。これからのイベントのあり方を検討
12月	12月8日～2021年1月末まで臨時休館となる。

休館中も
相談業務は
継続しました



2021年

1月	2月7日まで臨時休館が延長となる。
2月	3月7日まで臨時休館が延長となる。

2回目の
緊急事態宣言
再び臨時休館



ラコルタからの お知らせ

2021年4月から
会議室のご利用が **WEB申込み** になります！

4月1日より「吹田市公共施設予約・照会システム(以下、システム)」の運用を開始します。利用申込みにあたっては、**事前に「利用者登録」の手続き**を、ラコルタの窓口にて行ってください。運用開始後は、パソコンやスマートフォンからシステムにログインして、利用申込みをしていただくことになります。



従来の申込み方法 (2021年3月31日まで適用)	変更後の申込み方法 (2021年4月1日より適用)
①窓口or電話にて空き状況を確認 ②窓口にて申請書の記入 ③窓口にて使用料の納付	①システムで空き状況を確認 ②システムで利用申込み ③窓口にて使用料の納付

<抽選申込みの方法について>

従来は、月始めに窓口にて抽選会を実施していましたが、2021年4月1日以降はシステムによる自動抽選となります。**4月1日の抽選に申込みれる方(市民公益活動団体⇒7月利用分、一般⇒6月利用分)は、2021年3月25日～3月31日までの間に、システムで抽選申込みを行ってください。**

システムのWEB
サイトはこちら



ご不明な点が
あればラコルタ
までお問い合わせ
ください。

編集
ノート

リタイアを機に、昨年から、ラコルタの活動に参加させていただきました。これまでの生活で、関わりの少なかった「地域」とのつながりを見つめ直すためでした。コロナの影響で、飲み会や遠くへの旅行が制限されていますが、反面、地元を再発見する機会と時間が増えたようです。（山本）

<発行責任者> 柳瀬真佐子
<編集スタッフ>
茨木由美・伊富貴順一・入江陽子・
春貴勇力・森戸秀次・山本泰秀

ラコルタ吹田 検索 <https://suita-koueki.org> アクセス 阪急電車千里線「南千里駅」改札出て左、千里ニュータウンプラザ6階

NewsLetter Vol.34
※年4回発行（3月・6月・9月・12月）

ラコルタ

吹田市立
市民公益活動センター

VOL.34

出会う→集う→育てる→実る

Newsletter 2021年3月1日号

○表紙：「Be Social」第19回・中山麻衣子さん
○中面：特集/コロナ禍で見えてきた市民公益活動
つながるチカラ！

非常時における市民社会の役割 part 4

○うら：ラコルタの取り組み、イベント

「市民公益活動」は市民が自発的に行う社会貢献活動です。

市民公益活動センター（愛称：ラコルタ）は市民の力で
吹田市をより良いまちにするため、これらの活動を支援しています。



私たちが暮らす
地域や社会の事を
他人事ではなく自分事にする。
そういった“ソーシャルな生き方”の
魅力をお伝えします。

なかやま まいこ

第19回 中山 麻衣子さん

認定特定非営利活動法人NPO会計
税務専門家ネットワーク 理事

吹田市千里丘在住。会社員時代に学んだ経理や財務の知識を活かし、会計ボランティアとして活動を始める。現在は、税理士としてNPO法人の運営支援を行っている。

<https://npoatpro.org/>

NPOで働き、
暮らせる人を増やしたい！



ボランティア活動から
税務のプロへ

阪神・淡路大震災の頃からボランティア活動に参加していました。2009年に夫の転勤先である名古屋で水害が起こり、愛知・名古屋水害ボランティア本部が立ち上がりました。その時これまでの職歴を見込まれ、本部の経理を頼まれたのが私にとって転機でした。その後、会計ボランティアとして活動をするようになり、税理士の資格も取得しました。

■会計の意義

会計を判り易く伝えるための手引き「NPO法人会計基準」の改訂に関わりました。NPO法人の会計は、法律で情報公開が義務づけられていますが、財源には会費や寄付が含まれることから、市民や社会への説明責任が重要となります。現在は、会計税務に関する様々な悩みにお答えしています。

■私の活動ミッション

NPO法人の活動は自己実現だけではなくありません。子育てとの両立やセカンドキャリアなど、雇用の場として幅広い可能性も持っています。私は会計・税務だけでなく事業計画全般について相談にのることで、団体に寄り添う伴走型で関わっています。健全な運営基盤を作ること、NPO法人で働く人が適正な報酬を得て生活できるようにしていきたいです。

学ぶ

ボランティア・NPO 初歩講座

興味がある方、活動はしているがもっと理解を深めたい方など。「出前講座」も承ります。お気軽に！
●毎月開催！●定員 10名

やってみたい！の聲に
お応えします！

見つけよう！
自分にあった
ボランティア

単発！
短時間！

働きざかりの方や家事・勉強に忙しい方など週末や余暇の新しい過ごし方として。初心者の方でも気軽に参加できます！（例）お弁当作り・喫茶・竹林整備など

体験



「ボランティア・NPO 初歩講座」「ぶちボラ」のお申込み・お問い合わせはラコルタまで

出会う→集う→育てる→実る
吹田市立市民公益活動センター

TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851

Eメール info@suita-koueki.org

指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた

コロナ禍で見えてきた市民公益活動 つながるチカラ！

非常時における市民社会の役割 part 4

2020年4月の緊急事態宣言から、間もなく1年を迎えようとしています。それにより、多様な形で市民の暮らしを支えてきた市民公益活動団体は、会議や交流、イベントが行えないだけでなく、利用者・受益者への影響に対して、支援の継続とコロナ対策とのほざまでジレンマを抱えています。

ラコルタでは、昨年6月～8月にかけて、市民公益活動団体を対象に新型コロナウイルスによる困難や変化についてヒアリングとアンケートで実態調査を行いました。また、ニュースレターでは「非常時における市民社会の役割」を連載し、様々な考え方や指針、実践事例などを紹介し、この状況を共に乗り越えていける道を継続的に探ってきました。

市民公益活動は人々が社会で安心して暮らすために欠かせない存在です。こんな時だからこそ「人のつながり」「参加」について、ふりかえりや問い直しを行い、新たなニーズや課題に応じた試みも必要です。今号では、日頃のつながりを活かし、工夫をしながら前に進もうとしている4団体の取り組みを紹介し、様々な課題に柔軟に対応できる市民公益活動の可能性について考えます。

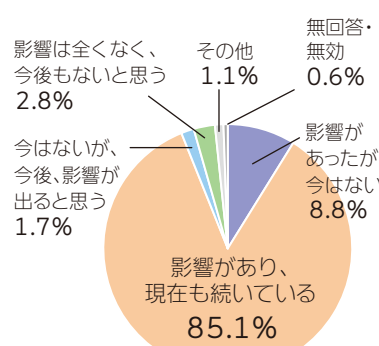
コロナ禍による活動への影響

昨年7月下旬から8月にかけてラコルタで実施した「新型コロナウイルス感染症による市民公益活動団体への影響に係るアンケート調査」によると、「コロナの影響があり、今も続いている」とする回答が85%を超え、影響の大きさが伺えました。(図1参照)

影響のあった項目については、ほとんどの団体が「事業や催し、会議を中止・延期した」と回答した他、「収入が減少」や「会員やボランティアのやる気が下がった」など、今後の団体の運営や活動継続に不安を感じている団体が多くなっていました。(図2参照)

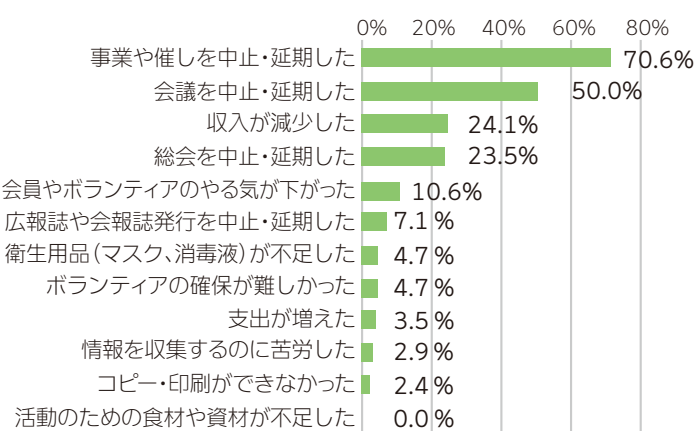
また、今後の活動については、「今の活動を継続」と回答する団体が約30%ある一方で、「今の活動を変更又は縮小して活動」と回答する団体が約30%、「コロナ禍の収束を見て活動を再開」が約20%を占めていました。

図1.活動や運営における影響



【調査対象】吹田市市民公益活動団体ガイドブック掲載団体(273団体)
【回収数】181団体(回収率:66.3%)

図2.影響が出たと思われる項目(複数回答あり)



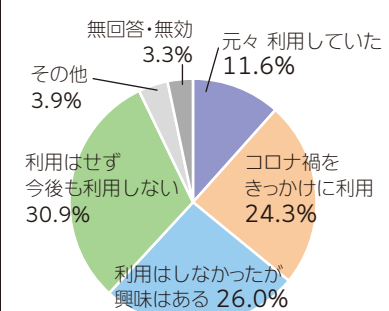
※4面では、年表形式でラコルタの取り組みを掲載しています。

ラコルタの取り組み

市民公益活動の拠点施設であるラコルタも、コロナ禍による影響を受けました。感染拡大防止のため、休館や事業の中止を余儀なくされましたが、上記のアンケート調査などから団体のニーズ把握に努めました。特に、オンライン化に対するニーズが高まっていたことから、「オンライン会議体験会」の実施や、会議室利用時にオンライン配信ができる環境整備を図ってきました。また、団体の活動現場に出向いてオンライン会議の出前講座も実施しました。(図3参照)

今後は、自治会などの地縁団体へのニーズ調査も行いながら、コロナ禍における地域活動のサポートにもつなげていきたいと考えています。

図3.オンラインの利用について



活動を止めない『工夫』

アンケート結果からも団体への影響が大きかったことがわかりましたが、市民公益活動においても社会環境の変化に対応していくことが必要です。従来の活動を見直し、工夫を凝らしながら活動を続けている事例をご紹介します。

●寄付を地域に役立てる

「たくさんの出会いや、つながりを持てるような場所があったら」という思いから、3世代が集う食堂を片山地域で開催。現在は感染予防のため食堂を中止していますが、寄付された食材を無料配布することで、地域のつながりを維持しています。



ハッピー食堂あいのわ

https://peraichi.com/landing_pages/view/ainowa2018/

●音楽療法のDVDを制作

高齢者や障がい者施設に出向き、レクリエーション活動を行っていましたが、コロナにより施設への訪問が制限されました。無観客で収録したDVDを施設や在宅の高齢者、障がい者に届けることで、コロナ禍での楽しみや口腔ケアを途切れさせない支援を行っています。



特定非営利活動法人吹田市音楽療法推進会 おんがく・さ〜くる・コスモス

<https://mccosmos.com/>

●歌体操をオンラインで開催

ボランティア先である高齢者施設での活動が中止となり、定例で行っていた歌体操の練習もできなくなりました。そこで、昨年5月よりオンラインでの練習会を開始。高齢のメンバーが中心ですが、延べ1000人が参加しました。今ではオンライン会議も定着しています。



心ふれあいSA吹田

<http://sa-renkyo.sakura.ne.jp/active/suita/>

●無観客でキャンドルイベントを実施

「千里ニュータウンで子ども達の心に残る風物詩を創る」をコンセプトに、毎年開催していたキャンドルイベント。昨年は閉園後の万博記念公園で、大阪府の協力のもと、無観客で開催しました。当日の様子はドローンで撮影し、後日に動画で配信しました。



千里キャンドルロードプロジェクト

<https://www.senricandlroad.com/>